

代価すべて払われたり

NTTOB 福島 勲

(ヨハネによる福音書 1 章 1～18 節)

神を解き明かされた

「初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。

ことばは神であった」(1 節)

著者ヨハネは、イエス・キリストを表現するのに、なぜ「ことば」(ギリシャ語ロゴス) という代名詞を使ったのでしょうか。「ひとり子の神」あるいは「キリスト」としてもよかったのではないのでしょうか。

ヨハネは、他の福音書の著者たちが記録していないイエス・キリストの大切な面を伝えたかったに違いありません。

一般に「ことば」は自分の意思を他者に伝達するための手段。もし「ことば」がないなら、意思疎通は困難になります。私たちは、「ことば」を通して、互いに相手を理解し、交わりもできるようになります。

イエス・キリストが「ことば」あるいは「神のことば」(黙19:13) であるとは、どういうことでしょうか。

それは神の御心を伝えるお方、神ご自身を表現するお方ということではないのでしょうか。神様は私たちに対してどのような愛の御心をお持ちなのか、どのようなお方なのかを説明されるということです。

「いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである」(18 節)。

肉体という幕屋を張られた

神を解き明かすために「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた」(14 節) と訳されていますが、詳訳聖書では「さて、ことば〔キリスト〕

は肉（人間、人間性を持つ者）となり、私たちの間に幕屋を張られた〈彼の肉体という天幕を張られた、しばらくの間住まわれた〉と訳しています。

昔、イスラエル人たちが、エジプトからカナンの地に向かう途中、荒野で幕屋を張りました。特に、神が臨在されるという幕屋は、神がその材料も寸法も設置方法も指定したものだ。それはこの地上における神のみ住まいでした。

驚くべきことに、ことば（キリスト）が人となられた時、それは神が人の肉体という天幕を張って、その中に住んでおられたということでありませう。

この方にいのちがあった

弟子のヨハネは、そのようなイエス・キリストとの三年半の生活を通し、「私たちはみな、この方の満ち満ちた豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを受けたのである」（16節）と語っています。

イエス・キリストの口から出て来たのは「恵み」の言葉（優しさと思いやりのある言葉、親切な言葉）でした。ユダヤ教の厳しい戒めと自分の内側の原罪に苦しんでいたヨハネにとって、それはどれほど慰めと励ましとなったことでしょう。

また、「ことば」なるイエス・キリストには、いのちがありました。悪習慣を絶ち切ることは誰にとっても大変なこと。ヨハネにもさまざまな弱さがあったことでしょう。しかし、このイエス・キリストと語り合っている時に、その口から出て来る恵みの言葉によって力が湧いてくるのを経験したのです。それをヨハネは「いのち」（ギリシャ語ゾーエー）と呼びました。

「この方にいのちがあった。このいのちは人の光であった」（4節）

ヨハネにとって、いのちは心の内を照らし温め、安らぎと力と喜びを与える光でありました。

代価すべて払われたり

「神のことば」なるキリストは、神の恵みを私たち人に与えるお方となりました。神の恵みとは、神が愛の御心を持って無償で人のためにしてくださるもの。特に新約聖書では、罪の赦しをはじめ、永遠のいのち、いのちの水等々、イエス・キリストを通して与えられる祝福であります。

この世においては、何を購入するにも代価が必要です。不動産を購入するのに何千万円かを払わなければなりません。コンビニでお菓子を買うにも百円なにがしかのお金を払います。

ところが、ありがたいことに、イエス・キリストを通して与えられる神の恵みは、すべて無償です。

「渇く者は来なさい。いのちの水がほしい者は、それをただで受けなさい」
(黙22:17)

なぜ、ただなのでしょう。

代価はすでに払われたからです。

どなたが払ってくださったのでしょうか？

「神のことば」なるキリストが払われたのです。

いつ、どこですか？

二千年前、カルバリの十字架で、罪のない血を流すことによって払われたのです。



十字架上で6時間もの間、肉体的な苦しみに遭ったことが聖書に記されていますが、私たちの想像を絶する、肉体的、精神的、靈的苦痛の極みでした。

その苦しきは「私たちのため」（イザヤ53:5）でした。全人類の罪に対する代償でした。イエスの復活はその代価が神の義の要求を完全に満たした証拠です（ロマ4:25）。

そういうわけで、私たちは、ただで神の恵みにあずかることができます。「信ずる者は誰もみな救われん」（聖歌424番）と確信を持って歌うことができます。

人によっては、自分で罪滅ぼしができると考える向きがあるかもしれませんが。しかし残念ながら、人のいかなる難行苦行も、慈善行為も、罪の代償にはなり得ないのです。神は、贖いの供え物の条件を示されました。

「それが受け入れられるためには傷のないものでなければならない。
それにはどのような欠陥もあってはならない」（レビ22:21）

人の罪を贖うのは、一点の傷もない（罪のない）神の御子キリストだけがなし得ることでした。

「しかしキリストは、…ご自身の血によって、…永遠の贖いを成し遂げられたのです」（ヘブル9:11-12）

ああ、なんと感謝なことでしょう。

世界中のどんな人にも与えられる

さらに感謝なことに、神の恵みは無償であるだけでなく、人種的限界をこえて広く世界中の人々に与えられるもの。

肌の色は関係ありません。ユダヤ人、異邦人も関係なく、家柄も関係ありません。過去の善行や悪行さえも関係ありません。勉強ができるできな

い、学歴・経歴があるないも関係ありません。

十字架で贖いの代価を払ってくださったキリストを信じるすべての人が受け取れるのです。ダメだと思ふ私やあなたこそ受けることができるのが神の恵みであります。

神様は何の犠牲も払わずに、私たちに恵みを与えることができるのではありません。神の義（正しさ）はそれを許しません。御子キリストの死という大きな大きな犠牲を払って、はじめて人に罪の赦しを与えることができたのです。

献金や奉仕は代価になり得ない

献金は神の恵みを受けるための代価ではありません。代価はキリストがすでに払われました。献金は恵みに対する感謝の捧げ物です。

また奉仕も良き行いも神の恵みを得るための代価にはなり得ません。神の愛と恵みに対する感謝から生まれたものが、真の奉仕であり良き行いです。

こんな私も喜びの中で生活できるのは、すべて主イエスの恵みによります。何と有り難く感謝なことでしょう。この素晴らしい神の恵みを人に伝えずにはおれません。